

Contents

- 02 目次
プロローグ Vol. 13
- 04 特集 緊急援助・復興・防災
自然災害に
ともに立ち向かう
- 06 切れ目のない復興支援を! インドネシア
- 12 救援の最前線、国際緊急援助隊(JDR)
12 迅速に、的確に活動する モザンビーク
14 緊急医療の現場を変えるMDS
16 重要なふだんの備え
- 18 “より良い復興”は災害に強い町づくり フィリピン
- 20 巨大地震・津波を予測し備える メキシコ
- 22 データで見る自然災害と日本の支援
- 24 JICA海外協力隊がゆく Vol. 12
コスタリカ
- 26 ザ・研修⑦
日本の農業をアフリカで生かす
- 28 地球ギャラリー Vol. 134 フィリピン共和国
写真・文●清水 匡 フォトグラファー
二つの国の少年少女
- 34 教えて! 外務省
知っておきたい国際協力⑭
- 36 JICAイベントカレンダー
- 38 広報室から、プレゼントほか
- 39 JICA PRESS
- 40 わたしが見つけたSDGs Vol. 14



インドネシア・スラウェシ州のバル市で避難所生活を送る子どもたち。現地では復興に向けた取り組みが進む(写真:吉田亮人)。



信頼で世界をつなぐ
Leading the world with trust

風の人として 地域に寄り添う

プロローグ
Vol. 13

文・永田宏和

「地域豊饒化のための風、水、土、そして種の話」——これは、私たちプラス・アーツが地域支援や国際支援を行う際に大切にしているフィロソフィーである。

「地域豊饒化」とは、これまでのまちづくりのスローガン「地域活性化」とは一線を画するものだ。地域の希薄化したコミュニティの再生を目指し、住民が主体的にまちづくりに参加して、多世代が活躍する地域社会に向けた新たなまちづくりのスローガンである。

この「地域豊饒化」の実現のために重要なのが、「風、水、土、そして種の話」である。「地域豊饒化」には「風の人」「水の人」「土の人」という三つの役割が必要で、さらに「いい種」の存在が不可欠である。「土の人」は地域に暮らす人々のことを指し、「水の人」は地域愛に溢れる「土の人」を支援する応援団のことを指し、「風の人」は、地域課題の解決のために質の高いプログラムを開発し、(風に乗せて)地域に運んでくる専門家のことを指している。

具体的な事例の一つに、私たちがJICAプロジェクトで2017年から取り組む、ネパール・カトマンズ盆地5都市での小学校を核とした防災教育普及プロジェクトがある。5都市のモデル校約20校の教員たちを防災教育の担い手として育成し、彼らが顧問となって各校に「防災教育クラブ」を設立する。そして同クラブ・メンバーである高学年の児童たちが日々楽しみながら防災の知識や技を学び、新たな担い手となって、低学年の児童や保護者に防災教育を普及させていく取り組みである。

このプロジェクトで、「風の人、水の人、土の人」の役割を当てはめてみると、まず「土の人」は小学校に通う児童たちだ。その児童たちの防災力向上のために情熱を持って防災教育を行う「水の人」が教員たち、このプロジェクトのために質の高い防災教育のプログラム(「いい種」)を日本から運んでくる「風の人」が私たちである。そして、私たちが運ん



イラスト●中村知史

だ種は、05年に神戸で開発されて、現在、国内外に活動の輪を広げている、楽しく学ぶ防災訓練「イザ!カエルキャラバン」である。

「イザ!カエルキャラバン!」は、いい種に求められる二つの要素、「ナクリエイティブ」と「不完全プランニング」を併せ持っている。既成概念にとらわれないクリエイティブな発想で楽しく演出され(「ナクリエイティブ」、プログラムに関わる児童や教員たちを魅了し、参加意欲を高めている。さらに、プログラムに余地や関わり代を意図的に設え(「不完全プランニング」、地域のさまざまな関係者・機関を巻き込み、地域色を生かしたローカライズを実現している。ネパールでは、教員たち(「水の人」)の手により紙芝居やカードゲームなどの防災教材がローカライズされ、「防災教育クラブ」の日々の活動で使われている。

私たち(「風の人」)のネパールでの役割は年月を重ねるとともに変わりつつある。防災教育のいい種をネパールに運び、教員たち(「水の人」とローカライズを行い、児童たち(「土の人」)の防災力向上に取り組んできた。しかし今後は、私たちが育てた教員たち(「水の人」)に「風の人」の役割を担ってもらい、新たな「水の人」の育成や種の開発に取り組んでもらう必要がある。そして最終的には、日本からネパールに吹いた私たち「風の人」は潔く去らねばならない。近い将来私たちが行った支援の痕跡も消えてなくなり、すべてがローカライズされ、それらがしっかりと根を張って、すくすく育つ姿を見ることが、私たち「風の人」の最大の喜びである。

永田宏和(ながた・ひろかず)

1993年、大阪大学大学院修了。2005年、楽しく防災の知識や技が学べる新しい形の防災訓練「イザ!カエルキャラバン!」を開発後、NPO法人プラス・アーツを設立して、理事長に就任。現在、全国各地およびアジア、中南米を中心に、世界21か国での防災教育普及に取り組む。東京メトロ、無印良品、NHKなど企業・メディアの防災アドバイザーも数多く務める。2019年度JICA理事長表彰受賞。

NPO法人プラス・アーツ公式ウェブサイト: <http://plus-arts.net>

JICAネパールプロジェクト「防災教育クラブ」facebookページ: <https://www.facebook.com/insec.org.np/>